挨　拶

主催者挨拶

島谷　克義

公益財団法人
ファイザーヘルスリサーチ振興財団
理事長

来 賓 挨 拶

岩井　一郎

一般財団法人
医療経済研究・社会保険福祉協会
医療経済研究機構　研究主幹

主催者挨拶

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 理事長
島谷　克義

主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

本日は第24回ヘルスリサーチフォーラムおよび平成29年度研究助成金贈呈式にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また、日頃は当財団の事業活動に多大なるご支援とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本日の会では、厚生労働省大臣官房厚生科学課長 浅沼一成様、一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 研究主幹 岩井一郎様、ファイザー株式会社代表取締役社長 原田明久様よりご挨拶をいただくことになっております。よろしくお願い申し上げます。

さて、本日のプログラムですが、最初のヘルスリサーチフォーラムでは、平成26年度に助成を受けた3演題と、平成27年度に助成を受けた31演題、今年度に一般からご応募をいただいた4演題の、合計38演題の研究発表がございます。そのうちの21演題が、既に午前中のポスター・セッションで発表され、活発な議論がなされておりました。午後はこのホールにおいて17演題の発表が行われる予定ですが、引き続き活発な議論がなされることを期待しております。

フォーラムに引き続き、平成29年度の研究助成受賞者の発表ならびに助成金の贈呈式が行われます。選考の詳しい経緯と結果については、選考委員長の永井先生から詳しくお話をいただきますが、本年は174件のご応募をいただきました。この中から厳しい選考を経て38件の研究が助成対象として採択されました。本年度も4.5倍という高い競争率でした。採択された皆さまには心よりお喜びを申し上げます。

本年度の助成金の規模は5,692万円で、ここ数年の間で少しずつではございますが増加をしております。当財団が発足した平成4年以来の累計で847件の研究が採択され、助成総額は19億1,722万円になりました。これもひとえに、主たる出捐企業であるファイザー株式会社ならびに関係団体や個人の皆さまのご尽力のたまものと、深く感謝をしている次第です。

さて、ご存じのように、当財団の事業目的は、保健、医療、福祉の進展を国民のクオリティー・オブ・ライフの向上に結び付けるための研究助成、提言、研究者の育成、調査研究、国際交流などを行うこととされておりますが、その良い例として、本年度の『ヘルスリサーチニュース』の『温故知新』のコラムに、国立がん研究センター中央病院の中村健一先生のお話が掲載されておりますので、ちょっとご紹介をさせていただきます。

中村先生は、国立がん研究センターで外科医であるとともに、日本臨床腫瘍研究グループの運営事務局として研究支援に当たられておりましたが、世界のがん領域の医薬品研究の最先端である米国の多施設共同試験の実施体制を自ら体験したいという強い思いに駆られ、平成22年に「多施設共同臨床試験グループの中央支援機構に関する日米比較研究」というテーマで当財団の助成を受け、米国で3カ月にわたり臨床研究グループやファウンディングエージェンシーなどのリーダーたちにインタビューをし、議論を行い、見識を深められたそうです。そのときに、米国の臨床試験の規模とスピードには圧倒されたと伺っております。帰国後は、培われたネットワークや情報をもとに、国内で多くの多施設臨床試験を立ち上げるとともに、現在では米国や欧州と連携した多種類の国際医師主導治験を推進、支援されており、特にアジアを中心とした国際共同試験の中核的活動をされています。中村先生は、「このような人生のキャリアチェンジのきっかけとなったのはファイザーヘルスリサーチ振興財団の助成であった。このように多種多様なクリティカル・クエスチョンに対応してくれる懐の深い助成制度は貴重であり、若手研究者にぜひ推奨したい」と述べられております。

当財団の事業活動が真に国民の健康と福祉の向上に寄与しているかを常に自らに問い掛けつつ、今後もヘルスリサーチの振興に邁進してまいりたいと存じております。

皆様方のさらなるご支援とご協力をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。